科目名	日本史概論Ⅰ		担当教員	秋山 晶則	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SJH101
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かし、歴史教育（教科書）と歴史研究の関係性を軸に講義する。				
到達目標及びテーマ	「地域からみた日本の歴史」をテーマに、日本列島上に展開した歴史の大きな流れを、地域の歴史と関連させながら深く理解できる。あわせて、厳密な論証手続きや証拠にもとづいて歴史的にものごとを考えることができる。				
授業の概要	教科書も含めた歴史叙述のなかから、時代の移り変わりやその特色を示す記述をとりあげ、その意図を掘り下げ吟味するとともに、問題点もあわせ議論しながら実践的に学んでいく。これとリンクする形で、身近な地域の史料を用い、文献調査や資料調査の基礎を学びながら、人々の心性や行動様式、文化のあり方など、それぞれの時代の特徴を理解する。それを鏡として、自分たちが生きる現代社会についても、グループディスカッションなどを通して比較考究を試みる。				

授業計画	
第1回	歴史学と歴史教育
第2回	東アジアのなかの「日本」
第3回	戦国動乱と地域社会
第4回	幕藩制国家と地域支配
第5回	「鎖国」を考える
第6回	村と町のしくみ
第7回	さまざまな身分
第8回	内憂外患と地域社会
第9回	幕末維新期の社会と文化
第10回	近代日本と地域の変貌
第11回	植民地帝国日本
第12回	アジア太平洋戦争
第13回	敗戦と戦後社会
第14回	過去からの問い
第15回	総括（第1～14回）

事前学修	2時間	受講生からの問いをもとに進めるので、必ず配布資料を事前に精読し、用語や関連資料を調べ、質問・意見を整理しておくこと。
事後学修	2時間	配布資料をもとに講義内容や議論の道筋をふりかえり、論点を整理・復習する。
フィードバックの方法	小レポートの評価に基づき、ピックアップコメントを付すと同時に総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	ものごとを歴史的に考えることの意義、及び具体的な史実をふまえた歴史把握について、理解度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業内容に関する小レポートを課し、理解度に応じて評価する。

補足事項	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない。	—	—	—	—
参考資料	随時参照するので、中学校社会科教科書『新編新しい社会 歴史』（東京書籍）は必携。ほか、講義のなかで適宜紹介する。			

科目名	日本史概論Ⅱ			担当教員	北村 安裕	
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED1SJH402	
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	古代～中世の日本の歴史を、各時代の人物・事件を中心にひもといていく。到達目標としては、以下の3点を掲げる。①事実にもとづきながら物事の背景を追究する歴史的な思考法を学習する。②多様な史料のもつ特性を理解し、それらの史料から歴史的事実に接近する方法を理解する。③国際的な視野から日本列島の歴史を把握する視点を身につける。					
授業の概要	弥生～鎌倉時代を中心とした時期の歴史、および歴史を構成する史料の種類や特徴などについて、各時代の人物・事件に関する学生の発表を入口にして解説していく。本講義を通じて、日本史に関する幅広い知識とともに、学問としての日本史学の基礎を習得してほしい。					

授業計画	
第1回	「日本史」の枠組み
第2回	弥生時代
第3回	古墳時代
第4回	飛鳥時代前期
第5回	飛鳥時代後期
第6回	奈良時代前期
第7回	奈良時代後期
第8回	平安時代前期
第9回	平安時代中期（摂関期）
第10回	平安時代後期（院政期）
第11回	鎌倉時代前期
第12回	鎌倉時代後期
第13回	室町時代前期
第14回	室町時代後期
第15回	まとめ

事前学修	2時間	講義内で指示する事項について調べてくること。
事後学修	2時間	講義内で提示した課題に取り組むこと。
フィードバックの方法	学生による発表をもとに講義を展開する。また、質問を随時受け付ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	30%	4000字程度のレポート
上記以外の試験・平常点評価	70%	まとめ課題等
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
参考資料				